

Microsoft Build 2026 と知財業務

— エージェント AI 元年がもたらす知的財産実務へのインパクト

調査報告書（2026年6月）

Claude Opus 4.8

要約

- Microsoft Build 2026（2026年6月2～3日、サンフランシスコ・フォートメイソンセンター）は、AIに「聞く」から「任せる」への転換を全面に打ち出し、Microsoft IQ（Work IQ／Fabric IQ／Foundry IQ／Web IQ）、自律エージェント「Microsoft Scout」、Microsoft Agent Framework 1.0、Agent 365（ローカルエージェント対応）、Entra Agent ID、7種の自社製MAIモデルを束ねた「エージェント・ファースト」開発基盤を提示した^{1,3,4,5,6}。知財業務にとって、これは先行技術調査・明細書ドラフティング・FTO・ポートフォリオ管理を「複数エージェントに委任する」運用が技術的に現実化したことを意味する。
- 知財実務への最大のインパクトは、Copilot Studio／Foundryの「コンピュータ操作エージェント」「マルチエージェント・オーケストレーション」「エージェント単位の権限・監査（Entra Agent ID／Purview）」が、機密性の高い知財ワークフローを企業テナント内で完結させる土台を提供する点にある^{6,7,17}。ただしDeepIP・Patlytics・Solve Intelligence等の専用ツールが市場を先行しており、Microsoftスタックは「土台」「ガバナンス層」としての価値が中心である。
- 最大のリスクは「新規性喪失（守秘義務違反）」である。USPTOの「AI活用指針」（89FR 25609、2024年4月11日施行）と日本弁理士会「弁理士業務AI利活用ガイドライン」（令和7年4月）は、未公開の発明情報を外部AIに入力することが秘密漏洩・新規性喪失につながりうると明確に警告している^{9,10}。エージェントの自律化が進むほど、データ境界・権限・監査証跡の設計が「二層型組織モデル（オペレーショナルAI層 vs 戦略的人間層）」の成否を決める。

1. Microsoft Build 2026 の主要発表（事実）

1-1. テーマと位置づけ

基調講演は Satya Nadella CEO が登壇し、NVIDIA の Jensen Huang、OpenClaw 開発者 Peter Steinberger 等がゲストとして加わった。中核メッセージは「AI アシスタントから自律エージェントへ」の移行であり、Windows・GitHub・Azure/Fabric/Foundry・自社 MAI モデルを単一の「エージェント・ファースト」開発基盤として束ねる構想が示された^{1,2)}。会場は従来のムスコニー・センターではなくフォートメイソンセンターであった。

1-2. Microsoft IQ（コンテキスト層）の一般提供

GitHub Copilot・Microsoft Foundry・Copilot Studio 全体で一般提供（GA）となった。Work IQ（M365 全体の働き方を捉える知的レイヤ）、Fabric IQ（構造化データの意味論基盤）、Foundry IQ（エンタープライズ知識とライブ Web をまたぐ検索計画・サーバーレス検索）に加え、新規の Web IQ（モデル非依存・MCP ネイティブの高速 Web grounding）が発表された¹⁾。

1-3. 自律エージェント「Microsoft Scout」

OpenClaw（オープンソースのローカル AI エージェント基盤）をベースとする「常時稼働・自律型」エージェントの第一弾。Teams・Outlook・OneDrive・SharePoint に接続し、会議調整・準備資料生成・リスク検知を無依頼で実行する。各エージェントは固有の Entra ID で動作し、ポリシー適合チェックの監査証跡を生成する。Frontier 顧客向けに実験的に提供される^{3,4)}。

1-4. 自社製 MAI モデル群とモデル多様性

MAI-Thinking-1（推論モデル、Foundry でプライベートプレビュー）をはじめ MAI-Image-2.5、MAI-Voice-2 等の自社モデルが提示された。同時に Copilot/Copilot Studio/Foundry は「model-diverse by design」を掲げ、OpenAI（GPT 系）に加え Anthropic Claude を正式採用した。M365 Copilot の「Researcher」では、GPT が起案し Claude が正確性・引用整合性をレビューする「Critique」設計が実装されている^{1,8)}。なお、EU/EFTA/UK や一部の政府クラウドでは Anthropic の既定提供に制限がある点に留意を要する⁸⁾。

1-5. Agent Framework 1.0 と Agent 365

Microsoft Agent Framework 1.0（GA）は、Semantic Kernel と AutoGen を統合したオープンソースの SDK/ランタイムであり、MCP、A2A（Agent-to-Agent）、逐次・並列・ハンドオフ等のマルチエージェント・オーケストレーション、人間承認（human-in-the-loop）、長時間ワークフローのチェックポイントを標準化する⁵⁾。Agent 365（エージェントの統制プレーン）は 2026 年 5 月 1 日に GA となり、Build 2026 ではローカルエージェント（OpenClaw、GitHub

Copilot CLI、Claude Code 等) の検出・統制まで拡張、Defender/Intune で「Shadow AI」ページを提供する⁶⁾。

1-6. セキュリティ・ガバナンスとその他

Entra Agent ID (エージェントを第一級アイデンティティとして扱い、条件付きアクセス・ライフサイクル管理・監査を適用)、ポリシー駆動の安全性評価 ASSERT、Microsoft Discovery (科学 R&D 向けエージェント基盤、GA)、Majorana 2 量子チップ等が発表された^{6,20)}。

2. 知財業務への具体的影響 (分析・考察)

※ 以下は発表事実から論理的に導かれる応用可能性とリスクの分析であり、Microsoft が知財業務向けに直接言及したものではない (Microsoft が公開する「IP creation agent」シナリオテンプレートを除く)。

2-1. 先行技術調査・無効資料調査

Foundry IQ のエージェント型検索 (クエリ分解→多ソース横断→反復→統合) は、知財調査の構造と本質的に一致する。理論的には「特許 DB 検索エージェント」「非特許文献検索エージェント」「侵害リスク評価エージェント」をマルチエージェント連携させ、一次スクリーニングを自律実行する設計が可能になる^{5,22)}。

ただし市場では専用ツールが先行している。Patlytics (2026 年 4 月の 40 百万ドル Series B、累計約 65 百万ドル) は、自社発表で「Am Law 100 の 40%超」が利用し、顧客に Canon、Rivian、Asahi Kasei 等を挙げ、「プロジェクト時間 80%削減」を標榜する¹¹⁾。Stilta (2026 年 5 月の 10.5 百万ドルシード) は、特許番号投入で 1.8 億特許・2.5 億論文等に「エージェント群」を展開し、内部ベンチマークで汎用モデルの約 3 倍の recall を主張する¹²⁾。DeepIP (Microsoft Word アドイン) は特許性・無効調査の所要を短縮するとしている¹⁴⁾。なお、Cypris の自社比較テストでは、FTO 関連クエリで Cypris が 40 件超を特定したのに対し汎用 Microsoft Copilot は 4 件にとどまったと報告されている (ベンダー自己検証であり割り引いて解釈すべき)¹⁵⁾。

2-2. 明細書ドラフティング・出願書類作成

Build 2026 の「Frontier Tuning」(コンプライアンス境界内の強化学習) と Work IQ の個人・組織コンテキストは、ドラフティングの個別化と親和性が高く、自社の過去公開明細書でスタイルを再現するエージェント構築が理論的に可能になる¹⁾。専用ツールでは、DeepIP が「20~50%のドラフティング時間削減」、Solve Intelligence (2025 年 12 月の 40 百万ドル Series B、

Thomson Reuters・Y Combinator 出資、400 超の IP チームが利用) が「50%以上の生産性向上」を標榜する^{13,14)}。

2-3. FTO・侵害分析

Foundry IQ/Agent Framework は、クレーム要素ごとの対比やクレームチャート生成といった構造化タスクをエージェントに委任する基盤を提供する。専用ツールでは Patlytics (侵害検知・Evidence of Use)、DeepIP (FTO/Invalidity スイート)、Stilta (権利行使・事業化側のミラーワークフロー) が該当する^{11,12,14)}。最終的な FTO 意見が弁護士・弁理士に帰属する点は各ベンダーも明示している。

2-4. ポートフォリオ管理・IP ランドスケープ

Fabric IQ と Foundry IQ の組合せは、IP ランドスケープ分析・ホワイトスペース検出・ポートフォリオ整理に応用しうる。専用ツールでは IP Copilot (Jira/Confluence 連携で発明開示を大幅増加させた事例)、DeepIP「Portfolio Intelligence」、日本の Patentfield (検索・分析を最大 80%削減と標榜) 等がある^{23,24)}。

2-5. 業務プロセスの自動化と Microsoft スタック上の構築可能性

Copilot Studio では 2026 年 5 月に「コンピュータ操作エージェント」が GA となり、API を持たないレガシー知財システムでも画面操作ベースの自動化が可能になった⁷⁾。マルチエージェント・オーケストレーション、A2A、1,400 超のコネクタ、Work IQ 拡張性により、Microsoft 365 テナント内に「知財業務エージェント」を構築する具体的経路が整った。Microsoft は M365 Copilot の「IP creation agent」シナリオテンプレート (特許・商標等の書類生成、既存 IP 抵触の事前検索、出願・更新管理) も公開している¹⁶⁾。

2-6. ガバナンスリスク (知財に固有の論点)

新規性喪失 (最重要) : USPTO 指針は、発明の諸側面が先行技術調査や明細書・応答のドラフト生成のため AI に入力される場合に守秘義務違反となりうると明記し、AI が入力情報を保持・訓練利用・第三者提供しうると警告する⁹⁾。日本弁理士会ガイドラインも、外部生成 AI への秘密情報入力に第三者開示にあたり守秘義務 (弁理士法第 30 条) 違反のおそれがあり、知財分野では新規性喪失の観点からも十分な注意を要すると明記する¹⁰⁾。

野良 AI エージェント (Shadow AI) : Build 2026 の Agent 365 ローカルエージェント検出、Entra Agent ID、Defender/Intune「Shadow AI」ページは、まさにこのリスクへの回答である。未登録の調査エージェントが機密の発明データにアクセスする事態を防ぐため、エージェント単位の

固有 ID・条件付きアクセス・人間スポンサー・ライフサイクル統制が要となる⁶⁾。

データ漏洩・機密保護：Microsoft Purview（DSPM for AI、機微度ラベル+EXTRACT 権限、DLP、監査ログ）はエージェントのデータアクセスをラベル単位で制御できる¹⁷⁾。実際、2026年初頭には Copilot が機微度ラベル付きドラフト等を背景索引してしまう不具合が報告され、Microsoft はラベルをクライアント側で評価する方式に修正し全保存場所に DLP を拡張した¹⁸⁾。さらに、エンタープライズ Copilot でもフラグ付き語を含むプロンプトがレビューされうるとの指摘があり、機密案件ではカスタム環境+モデレーション免除の取得が選択肢となる¹⁹⁾。

2-7. 知財専門家の役割変化

日本弁理士会ガイドラインは、生成物の正確性は保証されず弁理士が検証し最終責任を負うと明示する¹⁰⁾。Microsoft 2026 Work Trend Index では、AI ユーザーの 50%が「AI 出力の品質管理」、46%が「批判的思考」を最重要の人間スキルと回答し、86%が「AI 出力を最終回答でなく出発点として扱う」と答えている^{20,25)}。弁理士・知財部員の役割は「実行者」から、方向付け・標準設定・成果評価を行う「オーケストレーター」へ移行する。クレーム解釈・出願戦略・侵害判定の最終判断は引き続き人間に帰属する。

3. 二層型組織モデルへの示唆

Microsoft の「Frontier Firm（人間が主導し、エージェントが運用する）」モデルは、知財部門の二層構造設計と直接対応する²⁰⁾。

- オペレーショナル AI 層：先行技術の一次スクリーニング、明細書の初稿、クレームチャートの素案、FTO の予備分析、ポートフォリオの可視化など、反復的・データ集約的タスクをエージェント群（Foundry/Copilot Studio 上で構築、Entra Agent ID+Purview で統制）に委任する。
- 戦略的人間層：クレーム解釈、出願戦略、権利範囲設計、侵害・有効性の最終判断、依頼者への助言、説明責任を担う。

成否を分けるのは「高リスク工程（法務・コンプライアンス）ではエージェント比率を保守的に保つ」というガバナンス設計である。Build 2026 の Entra Agent ID、Purview、ASSERT 等は、この二層型を安全に実装するための具体的な統制基盤を提供する^{6,17)}。

4. 提言（段階的導入）

第1段階（即時：基盤とガードレール）

- 知財部門の AI 利用方針を、USPTO 指針・日本弁理士会ガイドライン・EPO 指針に整合させて文書化する。とくに「未公開の発明情報を外部 AI に入力しない／入力する場合はデータ保持・訓練利用なしの契約条件と専用テナントを必須とする」を明記する^{9,10}。
- M365 テナントで、未公開明細書・発明提案書・調査メモに最高機密ラベル+EXTRACT 権限を付与し、Purview DLP を全保存場所で有効化する^{17,18}。
- 既存の「野良 AI エージェント」を Agent 365/Entra Agent ID/Defender「Shadow AI」で棚卸しする⁶。

第2段階（パイロット：低リスク工程から委任）

- 公開済み特許の一次スクリーニングや IP ランドスケープ可視化など「公開情報のみ」を扱う工程からエージェント化を開始する（新規性喪失リスクが原理的にない領域）。
- 専用ツール（DeepIP/Patlytics/Solve Intelligence 等）と Microsoft スタックを比較評価し、「Foundry/Agent 365 をガバナンス層、専用ツールを検索・ドラフティング層」とするハイブリッド構成を基本線とする^{11,13,14,15}。
- 各エージェントに固有 Entra ID+人間スポンサー+時限アクセスを付与し、Purview 監査で全データアクセスを記録する^{6,17}。

第3段階（拡張：マルチエージェント・オーケストレーション）

- 先行技術調査→ドラフティング支援→FTO 予備分析を連携させるワークフローを、Agent Framework 1.0/Copilot Studio で構築し、human-in-the-loop 承認を必須ノードとして組み込む^{5,7}。
- Frontier Tuning で自社の公開明細書スタイルを学習させる場合も、学習データは公開済み限定し、コンプライアンス境界（データ所在地）を明示する¹。

判断を変えるべき閾値

- 専用ツールへの全面移行：パイロットで「弁理士レビュー後の手戻り率」が許容水準（例：従来手作業比で品質同等以上かつ時間短縮 20%以上）を超えて改善した場合。
- 高リスク工程への拡張の凍結：Purview 監査でラベル未付与データへのアクセスや権限逸脱が検知された場合、またはモデレーションによる機密プロンプト漏洩懸念が解消できない場合は拡張を停止し第1段階に戻す^{17,19}。

5. 留意事項

- 将来予測・プレビューの区別：Microsoft Scout（実験的提供）、MAI-Thinking-1・Frontier Tuning（プライベートプレビュー）等は予測・ロードマップであり、達成済みの事実ではない^{3,4)}。
- 未確認の数値：一部メディアが報じた Work IQ/Web IQ の性能値は、Microsoft 一次情報で十分に裏付けられていない。
- ベンダー指標の性質：Patlytics・DeepIP・Solve・Patentfield・Stilta・Cypris の効率化数値や比較テストは独立監査されていないマーケティング数値・自己検証であり、割り引いて解釈すべきである^{11,12,13,14,15,24)}。
- 知財応用の分析的性質：本報告書の「知財業務への影響」は、IP creation agent シナリオテンプレートを除き、発表内容から論理的に導いた応用可能性・リスクの考察である¹⁶⁾。
- 新規性喪失の実例：USPTO・日本弁理士会・FB Rice 等はこのリスクを条件付きで警告しており、AI 入力により発明が現実に新規性喪失した記録された事例は確認されていない（予防的警告である）^{9,10,19)}。

参考文献

- [1] Microsoft, "Microsoft Build 2026: Be yourself at work," The Official Microsoft Blog, 2026 年 6 月 2 日. <https://blogs.microsoft.com/blog/2026/06/02/microsoft-build-2026-be-yourself-at-work/>
- [2] TechRadar, "Microsoft Build 2026 live — all the news and updates as it happens," 2026 年. <https://www.techradar.com/pro/live/microsoft-build-2026-live-all-the-updates-as-they-happen>
- [3] Computerworld, "Microsoft unveils Scout, an autonomous AI agent built on OpenClaw," 2026 年. <https://www.computerworld.com/article/4180103/microsoft-unveils-scout-an-autonomous-ai-agent-built-on-openclaw.html>
- [4] Microsoft, "Introducing Microsoft Scout: Your always-on personal agent," Microsoft 365 Blog, 2026 年 6 月 2 日. <https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365/blog/2026/06/02/introducing-microsoft-scout-your-always-on-personal-agent/>
- [5] Visual Studio Magazine, "Microsoft Ships Production-Ready Agent Framework 1.0 for .NET and Python," 2026 年. <https://visualstudiomagazine.com/articles/2026/04/06/microsoft-ships-production-ready-agent-framework-1-0-for-net-and-python.aspx>
- [6] Microsoft, "Microsoft Agent 365, now generally available, expands capabilities and integrations," Microsoft Security Blog, 2026 年 5 月 1 日. <https://www.microsoft.com/en-us/security/blog/2026/05/01/microsoft-agent-365-now-generally-available-expands-capabilities-and-integrations/>
- [7] Microsoft, "What's new in Copilot Studio: May 2026 updates and features," Microsoft Copilot Blog, 2026 年. <https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot/blog/copilot-studio/new-and-improved-computer-using-agents-a-new-workflows-experience-and-real-time-voice-experiences/>
- [8] Microsoft Learn, "Anthropic as a subprocessor for Microsoft Online Services." <https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-365/copilot/connect-to-ai-subprocessor>
- [9] U.S. Patent and Trademark Office, "Guidance on Use of Artificial Intelligence-Based Tools in Practice Before the United States Patent and Trademark Office," 89 FR 25609, 2024 年 4 月 11 日 (Federal Register). <https://www.federalregister.gov/documents/2024/04/11/2024-07629/guidance-on-use-of-artificial-intelligence-based-tools-in-practice-before-the-united-states-patent>
- [10] 日本弁理士会 「弁理士業務 AI 利活用ガイドライン」 令和 7 年 4 月. <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-guideline.pdf>
- [11] Business Wire, "Patlytics Raises \$40 Million Series B to Expand the AI Platform Purpose-Built for IP Work," 2026 年 4 月 8 日. <https://www.businesswire.com/news/home/20260408770722/en/Patlytics-Raises-%2440-Million-Series>

[B-to-Expand-the-AI-Platform-Purpose-Built-for-IP-Work](#)

- [12] LawSites, "Stilta, A Swedish Startup Bringing Agentic AI To Patent Litigation, Raises \$10.5M Seed Led By Andreessen Horowitz," 2026 年 5 月.
<https://www.lawnext.com/2026/05/stilta-a-stockholm-startup-bringing-agentic-ai-to-patent-litigation-raises-10-5m-seed-led-by-andreessen-horowitz.html>
- [13] Artificial Lawyer, "Solve Bags \$40m More, Thomson Reuters Increases Its Stake," 2025 年 12 月 9 日. <https://www.artificiallawyer.com/2025/12/09/solve-bags-40m-more-thomson-reuters-increases-its-stake/>
- [14] Legal Tech StartUp Focus Podcast, "AI-Powered Patent Drafting with Deep IP," Buzzsprout.
<https://www.buzzsprout.com/2454829/episodes/16922140-ai-powered-patent-drafting-with-deep-ip>
- [15] Cypris, "Actionable Innovation Intelligence built for R&D & IP." <https://www.cypris.ai/>
- [16] Microsoft Adoption, "IP creation agent," Scenario Library. <https://adoption.microsoft.com/en-us/scenario-library/legal/ip-creation-agent/>
- [17] Microsoft Community Hub, "Securing AI Agents End-to-End: Connecting Purview DSPM, Agent 365, and the AI Security Dashboard." <https://techcommunity.microsoft.com/blog/microsoft-security-blog/securing-ai-agents-end-to-end-connecting-purview-dspm-agent-365-and-the-ai-secur/4521155>
- [18] WinBuzzer, "Microsoft Patches Copilot Bug, Extends Protection for Confidential Documents," 2026 年 2 月 25 日. <https://winbuzzer.com/2026/02/25/microsoft-patches-copilot-bug-extends-dlp-all-storage-locations-xcxwbn/>
- [19] FB Rice, "Care before you share: Potential risks to IP rights from disclosure to AI assistants." <https://www.fbrice.com.au/ip-news-insights/care-before-you-share-potential-risks-to-ip-rights-from-disclosure-to-ai-assistants>
- [20] Microsoft, "Agents, human agency, and the opportunity for organizations," 2026 Work Trend Index. <https://www.microsoft.com/en-us/worklab/work-trend-index/agents-human-agency-and-the-opportunity-for-every-organization>
- [21] Microsoft News, "Majorana 2, made more reliable with Microsoft Discovery agentic AI." <https://news.microsoft.com/source/features/innovation/majorana-2-microsoft-discovery-agentic-ai/>
- [22] エムニ「製造業における先行技術調査の方法と AI 活用戦略 | 2026 年最新動向」2026 年 4 月 13 日. <https://media.emuniinc.jp/2026/04/13/genai-prior-art-search/>
- [23] IP Copilot, "IP Copilot for Enterprises." <https://ipcopilot.ai/ip-copilot-for-enterprises/>
- [24] Patentfield 株式会社「AI 特許検索・分析プラットフォーム Patentfield」evort.
<https://evort.jp/patentfield/platform>

[25] Inc., "AI Power Users Are Pulling Away From Everyone Else, Microsoft Says."

<https://www.inc.com/fast-company-2/ai-power-users-microsoft-work-trend-index-report/91343725>